



- 創立101周年 次の100年に向かって、母校100周年事業を推進しましょう
- 100周年記念募金に多大なご協力をいただきありがとうございます
一般募金11,403,152円、まなびや募金9,943,000円、合計21,346,152円の募金をいただきました。今後とも、ご協力を宜しくお願いします



就任のあいさつ

会長 直井 ユカリ (高32期)



本年6月1日に開催された令和6年度牧陵会定時総会において、会長に選任されました高校32期の直井(旧姓:池内)ユカリです。

池田前会長におかれましては、5期10年という長きにわたり牧陵会の発展に大きく寄与されました。これまでのご尽力に心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

このたび池田様からバトンを引き継いだものの、歴史と伝統ある牧陵会の会長という重責を担うことに大変緊張し、また身が引き締まる思いです。各界各層でご活躍の同窓生が多数おられる中で、これまで牧陵会の活動実績がない私が会長職に就くのは甚だ僭越ではありますが、縁あつての役目ですので微力ながら、横浜緑ヶ丘高等学校及び牧陵会の発展に尽くしてまいります。経験も人脈も能力も不十分ではありますが、幸いにしてこれまで会の運営を担われていた役員の方が引き続き一緒に活動いただけることになり心強い限りです。会員の皆様からもご理解とご支援を賜りたく、よろしく願い申し上げます。

私は、昭和55年(1980年)3月に高校を卒業しました。在校時は、高校の隣接地は米軍の接収地で、芝生が広がる丘陵には平屋の戸建てが点在していました。近所のYC&A(横浜カントリー&アスレチッククラブ)では外国人がテニスやサッカー等を楽しんでおり、未だ見ぬ「外国の風景」に異国への憧憬を抱いたものです。接収解除の後、今では日本の瀟洒な住宅地に変貌しましたが、地形や道路には当時の面影が残っており懐かしく感じます。部活動は山岳部に所属していましたので、校内での活動は殆どなく、平日は校外(森林公園など)でのランニングやトレーニング、土、日や夏休みに山登りに出かけていました。

同窓会は、自分自身の過ぎし青春と再会できる場だと思えます。高校時代を遠く懐かしむ世代、この春まで高校生だった若人まで、年齢や性別、歩んできた(歩んでいく)道も様々ですが、同じ横浜第三中学校、横浜第三高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校に通い、卒業したという共通項をもつ仲間の会が牧陵会です。同じ場所で思い出を作った同窓生同士が繋がり、広がっていく、楽しく有意義な場としていきたいと考えています。

横浜緑ヶ丘高校は、昨年が創立100周年という記念の年でした。既に次の100年に向けて歩み始めています。牧陵会の歴史を作っていくのは創立以来の卒業生の会員の皆様です。学び舎での出来事に思いを馳せるとともに、新たな思い出を一緒につくっていきましょう!

体育館新築工事竣工が
2024年11月となり、
100周年記念式典は
2025年5月に延期が決定

県立緑ヶ丘高校創立100周年記念イベント
牧陵・緑のフェスティバル

ぜんりよく音楽祭

緑高100年の歩みを卒業生と在校生が音楽で紡ぐ!
100周年記念イベントとして、
卒業生と在校生が音楽で紡ぐ音楽祭を

2024年9月23日(月曜日・振替休日)

神奈川県立音楽堂にて開催します。

入場料:1000円自由席です。

(詳細は同封のチラシをご覧ください)

CONTENTS

page P2: 牧陵会会長退任挨拶
学校長着任挨拶

P3: 緑高情報

P4: 牧陵会総会の報告

P5: 牧陵会活動方針

P6~7: 緑高情報

P8~9: 記念誌の発行、校史資料室

P10: 同期会だより、同好会だより

P11: 日日是好日

P12: 母校100周年記念募金経過報告

P13~15: 会費・寄付金納入のお礼

P16: 事務局より



牧陵会会長 退任挨拶

牧陵会相談役 池田 加津男 (高21期)



コロナ過もありましたが、5期・10年に渡り会長を務めさせていただきました。牧陵会とのつながりは、体操部OB会、高校21期会を続け、縁あって、牧陵会全体の事業運営に携わった後に、思いもかけず、会長に就任しました。

就任時に会費納入者が1,500名まで下がっていました、納入者数は牧陵会に賛同する方の数ともいえるわけで、お金だけではなく、会の存続の危機と捉え、納入者数の復活を呼びかけ、お陰様で、翌年には2,000名以上までV字回復いただきました。

母校の発展に向けては、高校7期の増川重彦様から資金提供をいただき、特異な奨学金として、「学びの奨励基金」が発足して9年を迎え、既に45名の生徒の活動に給付してきました。

また、学校創立90周年では校舎棟が一新され、この100周年では体育館の建替えが進められています。同時に校史資料室の整備が卒業生からの資料提供も受けて図られ、また、食堂の改修が進められるなど、環境整備も着々と進んでいます。

以上のことは、学校にとって大きな発展であり、牧陵会にとっても、また、私にとっても幸運な巡り合わせでした。

会員の交流と親睦を図るという目的に沿って、牧陵会を身近に感じていただきたく思い、多くの同期会、部活動OB・OG会に出席して様々な方との交流ができました。2万9千名近くの卒業生の同窓会としては、これらの集まりが分会とか支部といった位置づけとなり、牧陵会の基盤だということを目の当たりにして感じる事ができました。更に、牧陵会全体としては、世代間の交流も目的に加わり、緑のフェスティバルや新年の集いも開催され、同期会幹事委員会、総会なども交流の場となっています。

広報に関しては牧陵新聞、ホームページでのお知らせのほか、母校の卒業生の活躍を9回連載で伝えた朝日新聞の「青春スクロール」など、マスコミへの取材協力でも母校・及び牧陵会のPRの機会に幾度となく出会えました。

会長職を務める中で、同窓の絆を感じ取り、皆様が同窓会を楽しんでいることを拝見し、後輩の在校生を応援出来る事が本当に嬉しいことでした。この度の退任は会の運営の継続を図るためですが、この嬉しさを後任の方々に感じていただきたく思ったところでもあります。

退任に当たりまして、今までともに運営に携わり、スムーズな運営を図られた多くの役員・幹事の方の長い期間と広い範囲でのご尽力に対し改めてお礼申し上げます、楽しみをいただいた会員の皆様には感謝申し上げます。

これからも、牧陵会を楽しみましょう。本当にありがとうございました。



学校長着任挨拶

校長 坂元 久美子 (高35期)



芒種(稲や麦などの種をまく時節。物事を始めるのに縁起が良いとされる)を過ぎ、緑も色濃くなってきました。校内では6月22・23日の緑高祭に向け、生徒たちが活発に準備を進めています。

牧陵会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

この4月に着任いたしました、坂元久美子と申します。来年は創立100周年行事という節目に、秋山先生の後任として母校に勤務という、大変ありがたいご縁をいただきました。在校当時、私が所属していたバレーボール部は、グラウンドから少し下がった屋外コートで練習していました。月に数回しか使えなかった憧れの体育館は、今は年季の入った風貌です。建設中の新体育館は、県立学校では有数の大きさで、年明けには完成予定です。校舎設備を含め、生徒たちが恵まれた環境で学校生活を送れるのも、大変ありがたいことです。現在及び未来の緑高生が思う存分に学び、成長できますよう、職員とともに精一杯尽力いたします。何卒よろしくお祈りいたします。

本校は、令和4年度から文部科学省より「SSH(スーパーサイエンスハイスクール)」に指定されています。学校設定教科「緑の探究」をはじめ、全ての教科学習、校外でのスタディツアー等を通じて、生徒たちは探究的な学びを実践しています。それに加えて今年度から、神奈川県教育委員会より「学力向上進学重点校」に指定されました。昨年度までは「同エントリー校」でしたが、この度の指定を受けられたのは、近年の卒業生の進路実績と在校生の学習成果が評価されたからこそ、と考えます。これまでの本校へのご支援に対し、改めて御礼申し上げます。

私は、緑高生には、自身で意思決定した学びたいこと・やりたいことに思い切り挑戦してほしい、と思っています。また、自分を信じて大切に、自分と同じように他者を尊重することで、自由で対等でのびやかな毎日を過ごしてほしい、と願っています。

各所でご活躍されている牧陵会の皆様に、本校から「緑の探究」等の学習活動についてご相談させていただくこともあろうかと思えます。その際には話を聞いていただき、できましたらご指導ご教授ください。

緑高でのいろいろな経験が、生徒一人ひとりの可能性を広げる学びとなりますように、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2024 緑高祭

6月22、23日に緑高祭が開催されました。今年は「十人緑色～緑って834色あんな～」とのスローガン。834とは在校生の数なので、初日は好天に恵まれ、2日目は時に傘の花が咲きましたが、過去最多の8,809名のお客様を迎え大盛況となりました。野外ではバンドやダンスに、体育館では吹奏楽、管弦楽、バンドの演奏、ダンス、チアリーディングなどに歓声が上がりました。現体育館が使われるのは今年が最後。来年には新体育館のお披露目となります。クラス別の出し物に加え、部活動の成果など各人各様の表現が満載の2日間でした。



▲2024緑高祭Gate



▲緑高祭ポスター



■ 退任の挨拶

前校長 秋山 晶子



この度、令和6年3月で校長職を退くこととなりました。まず横浜緑ヶ丘高等学校校長として在職中の5年間にわたり、みなさまには多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。管理職人事の常ですが、3月末の連絡で生徒、保護者、牧陵会の皆様にも十分なお挨拶ができず、申し訳なく思っています。

令和元年となる平成31年4月に着任したときは、かつて職員として長く在籍した学校に懐かしさを覚えると同時に、施設設備の改善が急がれると感じました。新しい南館は明るく大きなロッカーも完備され、西館も耐震補強されて美しく生まれ変わっている反面、体育館や武道場はかつてのままで、耐震診断の数値は驚くほどのものだったからです。また、それまで「プログラミング教育研究推進校」であった神奈川県指定校事業が「理数教育推進校」に変更になり、3年後の文部科学省へのスーパーサイエンスハイスクール申請を視野に入れた取組が求められていました。どこからどう取組めばよいか、さまざま思案した結果、生徒や教職員の主体的な取組を促すことが最善であると考えました。本校の生徒や教職員は能力も高く、何より前向きな姿勢でチャレンジする人たちです。新しい道を一緒に切り拓いていけると思いました。多くの外部の方々からも、お力添えいただくことができました。その結果、うれしいことに体育館や武道場を本館と北館の跡地に新たに建設することが決まり、令和4年4月にはスーパーサイエンスハイスクールに指定されました。令和5年度からは、生徒が自らの学びを検討する委員会も設置され、今後ますますエージェントとしての活躍が期待されます。令和6年度からは学力向上進学重点校としても県立高校をリードする一校になっていくでしょう。

もう一つの5年間での大きな出来事は、新型コロナウイルス感染症の流行です。令和2年の3月に行われた突然の臨時休業発表から、学校は対応を迫られました。行事もできない状況で教育をどのように継続するかが最大の課題でした。生徒がいない学校で教職員のオンライン研修会を開催し、双方向オンライン授業を可能にしていきました。閉塞感が漂う中、画面上の生徒の笑顔に励まされた級友や教員も多かったと聞きます。デジタル環境は劇的に進歩しました。次第に規制が緩和されるに従い、生徒はできることを探して活動を再開し、現在は従来の活発な活動が行われています。

これからも自ら探究する生徒が集う緑高の、ますますの発展を願っております。

■ 着任挨拶

教頭 高木 祥子



牧陵会会員の皆様、初めまして、4月に教頭として着任しました高木祥子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

横浜緑ヶ丘高校は、神奈川県教育委員会や国から様々な指定を受け、将来日本や国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成に取り組んでいます。新たな時代に求められるリーダーとして、他者を受容しつつ自分の意見を発信できる人材、人と人のつながりを育める人材の育成に向けて、教職員一丸となって取り組んでまいりたいと思っています。

着任して1ヶ月を超え、横浜緑ヶ丘高校について学校の取組だけでなく、保護者の皆様、地域の皆様、そして卒業生である牧陵会会員の皆様の温かく多大なお力添えを受けていることを、痛感しております。

創立100周年を記念する様々な取組の成功に向け、皆様とともに精一杯務めたいと感じておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 異動の挨拶

前教頭 中川 崇寛



4月1日付で海洋科学高等学校へ異動となりました。牧陵会の皆様には在任中、学校行事を中心に様々な場面で大変お世話になりました。ありがとうございました。特に緑のフェスティバルや文化祭での牧陵会ブースの設置など、とても印象に残っております。また、令和4年度から準備していた100周年事業についても、委員会の運営等において多大なご支援をいただいたこと、大変感謝しております。

令和6年度には100周年の記念式典実施や新設体育館の完成があり、スーパーサイエンスハイスクールの指定も3年目となります。また、今年度からは学力向上進学重点校の指定がされ、昨年度の難関大学への進学実績を鑑み、進学実績のさらなる向上を目指すこととされます。今後の横浜緑ヶ丘高等学校の大きな発展を注目していきたいと考えております。

■ 横浜緑ヶ丘高校教職員異動状況

転出 (令和6年3月31日)			転入 (令和6年4月1日)		
教科等	氏名	新任校	教科等	氏名	前任校
校長	秋山 晶子	満了	校長	坂元 久美子	追浜
教頭	中川 崇寛	海洋科学	教頭	高木 祥子	希望ヶ丘
	山本 貴大	柏陽		安齋 賢	横浜氷取沢
	野澤 藍	横須賀南		稲葉 智芳	希望ヶ丘
	溝渕 知子	小田原・定		鈴木 千尋	横浜瀬谷
	伴 和幸	退職		北島 幸佑	横浜翠嵐・定
				下司 耕輔	保土ヶ谷

◆継続して緑ヶ丘高校で再任用、臨時任用の場合は掲載を省略しました。

2024年度 牧陵会総会の報告

2024 (令和6) 年6月1日(土) 波止場会館にて牧陵会総会を開催し、41名の出席で、下記議題を審議し、承認されました。

【総会議題の概説】

◆第1号議案 令和5年度 (2023年度) 牧陵会活動報告
 コロナ禍もようやく沈静化を見せ、牧陵会活動も様子見をしながらも、総会・懇親会の開催、校歌祭への参加、牧陵緑のフェスティバルの開催、新年のつどいの開催などコロナ禍により中止を余儀なくされた活動の再開が行われました。

また、しばらく行われなかった同期会やメモリアル同期会も期を繰り延べして開催が行われ、コロナ禍前の様子に近づいてきました。

◆第2号議案 令和5年度 (2023年度) 決算報告
 2,278名の方々からの会費をいただきました。目標より下回ったものの、寄付金額が増加し前年度繰越金も相まって、次年度繰越金ができるものとなりました。

◆第3号議案 令和6年度 (2024年度) 活動方針及び活動計画
 2023年度はコロナ禍脱却の年となるよう、事業活動再開を計画します。また、母校100周年事業への参画も本格化します。

◆第4号議案 令和6年度予算
 母校100周年事業の活動を支援すべく、基金の取り崩しなどを行い、積極的な計上をいたしました。

◆第5号議案 牧陵会役員改選
 本年度は役員改選期にあたり、新会長に直井ユカリ氏、副会長、各部会長を一新することを推薦し、承認されました。
 ⇒2024年度 牧陵会役員・幹事等名簿 (参照P.5)

◆第6号議案 母校100周年事業の取り組み
 新体育館の建設工事が遅れ、記念式典を2025年 (令和7年) に延期して開催することとなりました。
 それに伴い、記念募金の対応、緑のフェスティバル、100年記念誌の発行やその他の事業の取り組みについて審議いたしました。
 ⇒母校100周年事業の取り組みについて (参照P.12)

新役員でスタート 美濃 一代 (高22期)

令和6年度の牧陵会総会に於いて、会長・副会長を5期10年務められた池田さん・向井さん21期が退任されました。
 新会長は直井ユカリさんで32期です。そして各部会の部会長は丸茂さん44期 (総務会員部会) 中村さん26期 (事業部会) 西尾さん33期 (広報部会) とぐっと若返りました。総会に出席された会員の方々に快く承認して頂き、まずは順調なスタートで、ひと安心でした。



前部会長だった中山さん22期、小林さん28期、美濃22期は副会長として、『出来る人が・出来る時に・出来る事を』で、多くの会員の方に牧陵会の活動に協力して頂けるよう、そして新執行部が、その持てる力を存分に発揮できるように働きます。今後の牧陵会にご期待下さい。

2023年度決算・2024年度予算

■ 収入の部 (単位:円)				
項目	2023年度予算	2023年度決算	増減	2024年度予算
1. 会費	5,000,000	4,556,000	▲ 444,000	5,000,000
2. 入会金	840,000	813,000	▲ 27,000	840,000
3. 新年会参加費	0	441,000	441,000	490,000
4. 寄付金	2,400,000	3,293,000	893,000	3,000,000
5. 雑収入	31,181	148,382	117,201	238,003
単年度収入計	8,271,181	9,251,382	980,201	9,568,003
6. 前年度繰越金	2,568,819	2,568,819	0	1,431,997
7. 積立金取り崩し額	0	0	0	2,000,000
収入合計	10,840,000	11,820,201	980,201	13,000,000

■ 支出の部 (単位:円)				
項目	2023年度予算	2023年度決算	増減	2024年度予算
1. 総務運営費	4,554,000	3,937,716	▲ 616,284	4,728,000
2. 会員活動費	510,000	310,000	▲ 200,000	390,000
3. 事業活動費	690,000	1,343,474	653,474	2,000,000
4. 広報費	4,740,000	4,621,018	▲ 118,982	5,380,000
5. 牧陵校史資料室運営費	160,000	53,506	▲ 106,494	130,000
6. 積立金	100,000	100,000	0	100,000
7. 予備費	50,000	22,490	▲ 27,510	250,000
単年度支出計	10,804,000	10,388,204	▲ 415,796	12,978,000
8. 次年度繰越金	36,000	1,431,997	1,395,997	22,000
支出合計	10,840,000	11,820,201	980,201	13,000,000

基金等特別会計の状況 (2024年3月31日現在) (単位:円)	
1. 牧陵会基金	10,791,611
2. 記念事業積立金	2,658,561
3. 活動維持積立金	4,067,355
4. 事務所差入保証金 (新牧陵会事務所)	427,680
基金合計	17,945,207



【2024年度予算編成上の留意点】

★緑高創立100周年を念頭に、広報活動の充実と牧陵会の活性化・財政健全化を図る予算を編成

◆収入の部

- ①会費は「プロジェクト2500」を継続実施して、会費の収入確保 (目標2,500名) に取り組む。
- ②入会金：2025年3月卒業生数見込みによる。
- ③寄付金は前年実績並びに会費納入を勧奨して、1,000名×3,000円=3,000,000円を計上する。
- ④「緑高100周年記念 牧陵緑のフェスティバルコンサート」の支援として積立金1,000,000円の取り崩しを行う。
- ⑤牧陵新聞100周年記念特集郵送料増加の対応として積立金1,000,000円の取り崩しを行う。

◆支出の部 (主な増減項目)

- ①事務局の開所日増加への対応：事務局長 (月12日)、応援者 (月8日) の勤務体制を予算化
- ②「緑高100周年記念 牧陵緑のフェスティバルコンサート」の開催費として1,000,000円の経費を予算化。
- ③牧陵新聞100周年記念特集郵送料増加への対応として1,000,000円の経費追加を予算化。
- ④「牧陵」10号の発行支援を在校生のみとし (4,200部 ⇒1,000部) として減額予算とする。



2024年度 牧陵会活動方針

牧陵会の目的は、会員同士の交流と親睦を深め、母校の発展に寄与することです。そのためには、同期の集いや他の会員が行う活動に、各自ができる範囲で参加することが期待されます。

牧陵会全体としては、同期会の開催を支援するとともに、異なる世代の会員が一堂に会し、そこから生まれる交流を促進することを目指し、さらには母校の発展につながる事業を実施します。

令和6年度には新たな役員体制がスタートし、これを機に運営に参加する会員が拡大することが期待されます。

(1) 会員相互の交流、親睦の場を提供する事業

- 令和6年度牧陵会総会・懇親会の開催（幹事懇談会の再開）
- 第19回青春かながわ校歌祭への参加（現在、26校参加表明）
9月21日(土)：ひらしん平塚文化芸術ホール
- 緑高100周年記念 牧陵緑のフェスティバルコンサートの開催
9月23日(月)・祝に緑高100周年記念として開催
- 2025年新年の集いの開催（開催日は未定）
- 牧陵会事務所の活用
開所日を増やして、さらなる活用ができるよう体制を検討

(2) 母校の発展に寄与する活動

- 学びの奨励基金の運営（運営協議会）
コロナ禍を脱したことにより、在校生の積極的な応募を促します。
- 緑高祭の開催（6/22, 23）支援、校史資料室展示
- 生徒会誌「牧陵11号」の発行を支援（本年度は会員への送付はいたしません）
- 「緑高セミナー」を積極的に支援し、卒業生の紹介を努める。
- その他部活動の支援など、在校生の活動を支援
- 母校の運営への参画 学校運営協議会

(3) 広報活動ほか本会の活動基盤の強化を図るための諸事業

- 牧陵新聞の発行
2024年8月・2025年1月での発行を予定し、母校100周年の機運を高める
● 発送方法及び会費の「払込取扱票」の取扱いなどの検討
- ホームページの更なる活用、ネットやSNS利用による活動方法、集会方法、周知方法、意見聴取方法等の検討
- 宛先不明会員の解消、会員の情報の整備
● 会員からの住所変更等への対応に努める。
- 会費徴収方法の検討
● 会費徴収方法の検討及び会費納入者の増加策の検討
- 新しい活動への取り組み、維持向上
● 事務局の刷新・強化に取り組み
● 「牧陵会青年部」、「会員業種交流会」などの提案に組み込む
● 運営に携わる会員の増加を図るなど運営組織の維持向上を検討

(4) 学校創立100周年事業準備の推進

- 新体育館の竣工遅れに伴う記念式典の延期対応
⇒2024年11月から2025年5月へ
- 100周年記念誌の作成の作業
- 100周年記念募金の活動⇒募金受付を2025年5月迄に延長
- 記念イベント、記念行事等の準備推進
- 100周年記念特設ホームページを活用し、タイムリーな会員の皆様への告知

2024度 牧陵会役員・幹事等名簿

《役員、会計監査、相談役、顧問、参与、幹事》

【任期】役員、会計監査及び幹事の任期は、2024年6月1日より2年間です。

役職名	氏名	卒業期
会長	直井 ユカリ	高校32期
副会長（総務部会・会員部会担当）	美濃 一代	高校22期
副会長（事業部会担当）	中山 敏章	高校22期
副会長（広報部会・校史資料室担当）	小林 道昭	高校28期
事務局長	木村 徹	高校21期
会計監査	林田 政義	高校15期
会計監査	浦邊 剛至	高校30期
相談役	鈴木 正次	高校11期
相談役	峯嶋 利之	高校12期
相談役	山下 東洋彦	高校13期
相談役	池田 加津男	高校21期
顧問	坂元 久美子	校長
顧問	村井 仁史	副校長
顧問	高木 祥子	教頭
総務部会長	丸茂 健一	高校44期
総務部会副会長	大澤 正道	高校23期
総務部会副会長	山崎 愛	高校46期
総務・会員部会幹事	浅見 哲治	高校15期
総務・会員部会幹事	斎藤 順受	高校18期
総務・会員部会幹事	岩井 功	高校21期
総務・会員部会幹事	向井 信一	高校21期
総務・会員部会幹事	栗田 裕	高校26期
事業部会長	中村 ひとり	高校26期
事業部副会長	田原 正崇	高校44期
事業部副会長	砂川 裕美	高校46期
事業部会幹事	市原 義国	高校18期
事業部会幹事	小島 和子	高校17期
事業部会幹事	池田 亘	高校30期
事業部会幹事	吉野 丈仁	高校31期
広報部会長	西尾 匡弘	高校33期
広報部会副会長	宮本 太郎	高校23期
広報部会副会長	渋谷 昭子	高校38期
広報部会幹事	小松崎 敏彰	高校21期
広報部会幹事	乾 和夫	高校21期
広報部会幹事	片倉 正一	高校23期
広報部会幹事	宮田 昌樹	高校27期
広報部会幹事	渡部 卓雄	高校34期
牧陵校史資料室運営部会長	片倉 正一	高校23期
牧陵校史資料室運営副会長	小島 淳子	高校32期
牧陵校史資料室運営副会長	浅見 哲治	高校15期
牧陵校史資料室幹事	池田 加津男	高校21期
牧陵校史資料室幹事	小松崎 敏彰	高校21期
牧陵校史資料室幹事	向井 信一	高校21期
牧陵校史資料室幹事	松澤 俊朗	高校20期
牧陵校史資料室幹事	手塚 一昭	高校21期

《常設委員会・実行委員会》

委員会名	委員長氏名	卒業期
同期会幹事委員会 委員長	栗田 裕	高校26期
ホームページ管理委員会 委員長	西尾 匡弘	高校33期
ホームページ管理者	宮本 太郎	高校23期
100周年記念 緑のフェスティバルコンサート実行委員長	中山 敏章	高校22期
牧陵青春かながわ校歌祭実行委員長	市原 義国	高校18期



◆ 2学年修学旅行

11月27日(月)から2学年が修学旅行へ行きました。今年は沖縄とベトナムの選択で、半数ずつに分かれて出発しました。

【沖縄】沖縄班は男子68名、女子70名、計138名(偶然にもベトナムとぴったり半々)、元気に羽田を飛び立ち、平和学習を終えました。



沖縄のビーチ

【ベトナム】冬の日本から日暮れに飛び立ち、夜中のホーチミンに着きました。

市内のLe Hong Phong 高校で学校交流を行いました。



ソーラン節と一緒に踊る。黄色の服がLe Hong Phong 高校の生徒さん、青い法被を着た本校生徒と

◆ アカデミックキャラバン

11月2日(木)、鎌倉芸術館においてアカデミックキャラバンが行われました。

今年度は国立研究開発法人海洋開発研究機構(JAMSTEC)生物地化学センターの高野淑識センター長代理をお招きし、はやぶさ2が持ち帰ったリュウグウの岩石の分析から生命誕生に関わる研究についてお話いただきました。



◆ タイヘスタディツアー

海外との姉妹校交流を4年前に計画してから、新型コロナウイルスの影響で長らく実施できずにいた、タイへのスタディツアーがついに実現しました。日程は12月24日(日)～12月31日(日)です。以前オンラインで交流したアントン県のパタムロート高校を訪問して交流、山地民族の村で生活や農作業の見学、体験をしました。



◆ かながわ探究フォーラム

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)や理数教育推進校等における探究活動の成果発表を通じて、参加校の生徒に求められる課題解決力、創造力、プレゼンテーション能力等のより一層の向上を図る「かながわ探究フォーラム」が3月24日(日)、横浜国立大学で行われ、本校から3チームが発表しました。



◆ 卒業証書授与式

3月1日(金)、卒業証書授与式。卒業生代表の安齋隆智さんは緑高祭など、様々なことに意欲的に挑戦できたこと、これからの未知の世界へ挑む期待や今まで支えてくれた家族や周囲の人々への感謝を述べて、「立ち止まることはあっても決して後退はしない」と前向きな姿勢で新たな世界への抱負を語ってくれました。



令和5年度

部活動活動報告

(ホームページより)

吹奏楽部

● 全日本吹奏楽大会in横浜

11月11日(出)、みなとみらい大ホールで2日間にわたり第25回全日本吹奏楽大会in横浜が開催され、吹奏楽部が第一日目のプログラム1番で演奏し、2年連続の審査員長賞を受賞しました。



ダンス部

● 2年県大会で5位入賞

1月27日(出)、海老名市文化会館で行われた神奈川県高等学校体育連盟主催「第31回神奈川県高等学校ダンス新人大会」に、本校ダンス部から1年生チームと2年生チームが参加しました。2年生チームは、フリー部門67作品中「第5位」入賞と高い評価を得ました。



フィギュアスケート

● 沼田さんインターハイ決勝

1月20日(出)・21日(日)、茨城県ひたちなか市で行われた第73回全国高等学校フィギュアスケート競技選手権大会に、2年生の沼田有樹さんが参加し、ショートプログラムの成績により、決勝出場を決め、決勝ではフリープログラムで自己ベストを更新しました。



茶道部

● お茶会

1月17日(水)～19日(金)の昼休みに茶道部が初釜のお茶会を実施して、生徒の希望者にお菓子とお薄をふるまいました。西館4階の作法室は普段入る機会もないお部屋です。



管弦楽部

● ニューイヤーコンサート

1月15日(月)、磯子公会堂において管弦楽部の第18回ニューイヤーコンサートが開催されました。



全員で運命の扉をたたく

吹奏楽部

● 第47回定期演奏会

3月28日(木)、相模女子大学グリーンホール(相模大野)で吹奏楽部の第47回定期演奏会が開催されました。



チアリーディング部

●ケアプラザまつりに参加

3月10日(日)、近隣の本牧和田地域ケアプラザで行われた「ぼんちゃんまつり」に参加しました。春本番の暖かく良いお天気にも恵まれ、高校生のはつらつとした演技をご覧いただきました。



スタンツも決まって満面の笑顔

部活動表彰

3月22日(金)、終業式と離任任式が行われ、その後、部活動表彰がありました。

バドミントン部

- 横浜地区男子ダブルス
準優勝 東田一輝さんと山田航大さん

ダンス部

- 高体連主催
第31回神奈川県高等学校ダンス新人大会 第5位

書道部

- 第54回神奈川県高等学校教育書道コンクール
団体の部 準優勝、神奈川県教育委員会教育長賞
個人の部(臨書の部)
神奈川県書写能力検定委員会賞 山岡 優花さん
- 神奈川県高等学校総合文化祭
第60回高等学校書道展
特選 田中 栞さん

さくらサイエンス・ハイスクールプログラム

4月17日(水)に「さくらハイスクールプログラム」が行われました。科学技術振興機構(JST)が招聘した、中国、ブータン、フィリピン、ガーナ、ナイジェリア、ザンビアの高校生67名、横浜インターナショナルスクールの高校生10名の合計77名が来校しました。

午前には部活動の生徒と生徒会総務部の生徒のアテンドで、「茶道」「書道」「剣道」「日本の遊び」「調理」の5つのグループに分かれて日本の文化を体験しました。

午後は全校生徒参加の探究プログラムとして「英語で俳句をつくろう」を実施しました。3つの学年の生徒が入り混じった3~4名の本校生徒のグループに海外の生徒が加わって、英語での俳句づくりに挑戦しました。アイスブレイクなどお互いにコミュニケーションをとりながら、貴重な交流の体験となりました。



学びの奨励基金報告会

3月19日(火)、本校独自の主体的な学びを支援する「学びの奨励基金」を得た生徒4名がその結果を1・2年生に報告しました。

海老名隼輔さん(1年)は「不老不死の可能性」として、ベニクラゲの若返りの機能を医療に活用できないか、という疑問から和歌山の研究所を訪問しました。ベニクラゲの若返りは幹細胞のような細胞塊と化した個体からクローンとして再生するという機構を学び、人間の個体全体は無理でも臓器培養の可能性を考察しました。

京谷直登さん(1年)は「カブトガニの研究」として医薬的にも研究対象となっているカブトガニが2億年前から変わらぬ姿で生き残ってきた不思議を岡山の生息地に出向き、調査研究しました。生息地の干潟が人間の経済活動により危機にある状態を知ってもらいたい、と熱心に訴えました。

沼田有樹さん(2年)は起業および英語プログラムに参加した報告として、流暢な英語によるビジネスプランのプレゼンテーションを行いました。現在も高校生のビジネスコンテストを立ち上げ、政策提言に結び付けるなど、意欲的に活動し続けています。大学での起業を目指しているとのこと。

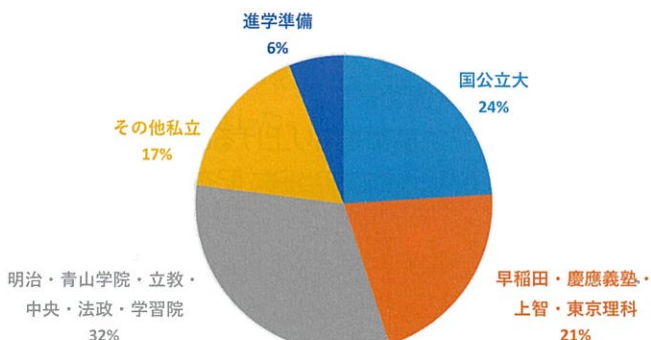
杉本詩織さん(2年)は山岳民族ボランティアに参加してタイに赴き、山岳民族の家にホームステイしたこと、村での交流や子どもとのふれあい、畑や灌漑の作業手伝いについて報告しました。山岳民族の社会における課題をタイ政府の施策と合わせて考察しました。

「学びの奨励基金」は卒業生である増川重彦、圭子ご夫妻からの寄付をもとに、グローバル社会に求められる幅広い教養を深める活動を通じて自己を成長させ、これからの社会に貢献する意欲を育むことを目指す生徒の主体的な学びを奨励するものです。他校にはない本校独自の取組であり、一時期新型コロナウイルス感染症の影響で応募できない時期もありましたが、生徒には積極的に応募してほしいものです。

進路状況一覧

卒業生の現役時における進路状況(過去3年間)

類別	2023年度卒業生(76期)	2022年度卒業生(75期)	2021年度卒業生(74期)	
4年制大学	国公立	62	39	73
	私立	185	192	162
	計	247	231	235
短期大学	0	0	0	
大学校	0	0	0	
海外の大学等	1	1	0	
専門・各種学校等	3	4	2	
就職	0	0	0	
進学準備等	20	38	41	
当該年度卒業生計	271	274	278	
進学率(%)	92.6%	86.1%	85.3%	





記念誌の発行



- 記念誌として優れた「横浜三中・三高・緑高60年史」及び70年史を基に、追加の40年を書き下ろします。学校の教育・育成の100年の歴史を振り返り、合わせてそれを支援する後援三徳会、牧陵会の活動を振り返ります。
- A5版(天地210mm×左右148mm)、上下2分冊(表紙4頁+本文456頁×2分冊)とします。
- 発行日を記念式典の延期を考慮して、令和7年(2025年)5月とすることを検討します。
- 発行部数2,000部を想定し、卒業生から希望を取って頒布することとします。
- 頒布については、牧陵会にて取りまとめ、頒布希望者に送付いたします。(送料:募金委員会負担)
- 頒布価格は3,000円とし、DVD版は1,500円といたします。
- 申込に係る手数料についても募金委員会負担とします。

● 体育館 工事進捗

写真は 浅見さん(高15期)撮影
5月になり屋根も葺かれ新体育館の概要が見えてきました。



母校創立100周年記念特集特別号発行検討 協賛支援者 募集 100周年事業委員会

100周年記念事業にあたり、地域一般に配布される新聞社による記念特集号の発行検討を始めました。発行にあたっては、100周年記念誌とは違った形で学校の歴史を俯瞰した特集号となるよう計画を進めます。

発行は100周年記念事業を盛り上げる時期を検討するとともに別刷りも作成し、記念式典当日に配布可能とするよう計画いたします。

具体的計画ができ次第、ホームページ、牧陵新聞次号にてお知らせいたします。

卒業生、関係者からの協賛支援のご協力をお願いします。



校史資料室

今はない部活動について

片倉正一(高23期)

現在、緑高には文化部系12、運動部系16、同好会4計32の部活動があり、活発に活動しています。一方、残念ながら廃部になってしまった部活動も過去、相当数ありました。今回はそれらをご紹介したいと思います。かなりたくさんあり、個々の紹介をする余裕はほとんどありませんが、そういえばこんなのがあったな、と懐かしく思っていたら、と思います。

文化部・運動部に分けて、創立順に挙げていきます。

〈文化部系〉

- **雑誌部**(大正12年~昭和18年)
冊子「牧陵」を編集していた部です。これ無くして六十年史は作れませんでした。
- **研究部**(大正12年~昭和3年)→理工部・科学部(昭和11年~19年)→理科部(昭和22年~29年)
今現在も「数学物理部」「化学生物部」「地学部」と揃っています。それらの前身といえるでしょう。
- **談話部**(大正12年~昭和19年)→弁論部(昭和22年~39年)
昔、弁論大会というものがありました。そういう大会で大活躍した部です。
- **電気部**(昭和22年~平成14年)
主に無線が中心の部活でした。OB会が活発で、当時のコールサイン「JA1ZAT」が最近復活しました。
- **演劇部**(昭和22年~平成27年)
一時は盛んで、ギリシャ公演をしたこともあります。
- **英語部**(昭和23年~平成3年)→E.C英会話クラブ(平成16年~平成26年)
英語劇などに取り組んでいたようです。
- **新聞部**(昭和24年~平成8年、平成12年~17年、平成30年~令和2年)
新聞編集に意欲のある部員が集まると活動を再開してましたが、最近またいなくなり、廃部状態となりました。しかし貴重な記録を残してくれています。



電気部



演劇部

- **詩歌研究部**(昭和25年頃~49年)
緑高校歌の作詞が「詩歌研究部」となっていますが、実際は三浦徳太郎先生の作詞であり、本人の希望でこのような表現になったようです。

- **華道部**(昭和26年~平成26年)
- **写真部**(昭和34年~平成3年)
- **会誌部**(昭和37年~43年)
- **速記部**(昭和37年~46年)

「中根式速記」を学んでいた様です。



会誌部

●郷土史研究部(昭和37年~51年、54年~63年)

ご存知でしょうか、緑高には平台貝塚があります。その発見を契機に誕生しました。



郷土史学研究部

●フィルハーモニア部(昭和42年~平成3年)

●社会科学部(昭和42年~50年、57年~平成2年は同好会)
高校紛争の頃は活発に活動していました。

●落語研究部(昭和43年~49年、58年~62年)

●映画研究部(昭和44年~63年)

●鉄道研究部(昭和47年~63年、平成21年~平成27年)

一時は鉄道のシステムや技術の研究、車両模型作製、研究旅行・撮影など多岐にわたる活動をしていました。

●食品研究部(昭和48年~53年)

●航空機研究部(昭和48年~56年)

●オペラ研究部(昭和52年~62年)

当時、オペラの部活は緑高にしかなかったという全国的にも貴重な部活でした。

●ボランティア団体(平成10年~17年)

●紅茶部(平成14年~19年)

〈運動部系〉

●柔道部(大正12年~昭和19年、昭和36年~平成20年)

創立時に誕生したもっとも古い部活の一つでしたが、戦後、GHQの武道禁止令によって、柔道部と剣道部は廃止させられました。その後昭和36年に両部とも復活しましたが、残念ながら柔道部の方は廃部となり、一方、剣道部は存続して今も活躍しています。



柔道部

●山岳部(大正12年~平成28年)

創立時からあった由緒ある部活で、かなり活発に活動していたようです。インターハイへ出場した記録も残っています。時代の変遷等もあり、部員数が減少する等により廃部になったようです。なお、OB会は「横浜三菱会」として登山活動を続け、今も定期的に会合をもち、有志で山登りをしています。海外の山へ遠征をしたこともあるようです。



山岳部

●滑空(グライダー)部(昭和17年~20年)

動力源はゴム索だったようです。時節柄人気があり、部員も50名を超えていたようですが、大空襲でグライダーが燃えてしまい、部としては消滅しました。



滑空部(昭和19年)

●馬術部(昭和17年~24年)

こんな優雅な部活がかつてあったんですね。小港にある横浜乗馬協会の馬場や、六角橋の神奈川乗馬倶楽部等で練習したようです。

●自動車部(機甲部)(昭和18年~20年)

日本軍がマレー半島戦でイギリスから捕獲した自動車が数台、県下の中学に寄贈されたのですが、三中には三八型シボレー箱型乗用車が寄贈されました。これで訓練し、運転免許を取得した生徒もいたようです。

●体操部(昭和24年~平成11年)

体操部は、男子6種目、女子4種目の器械すべてに取り組みなくてはならないためか慢性的な部員不足に悩まされていたようです。



体操部

●重量挙げ部(昭和37年~49年)

当時は緑高以外には県下に4校しかなかったそうです。あの金メダル三宅義郎選手が来校されたようです。



ウエイト・リフティング部

●フェンシング部(昭和42年~53年)

オリンピックに感化されて誕生したのでしょうか。詳しい記録は残っていません。



フェンシング部

また以下の部は戦時中ゆえの特殊な部活で、実際の指導は配属将校であったろうと思われます。歴史的事実として意義があるので、紹介します。

●射撃部(射道部とも)(昭和9年~19年)

通常の部と異なり、軍事教練での優秀射手が部員となったようです。

●銃剣道部(昭和16年~19年)

銃剣術(道)は軍事教練の一教目で、着剣した歩兵銃を擬した木銃やタンポ



銃剣道部(昭和18年)

銃を使って、白兵戦で敵を突き倒す訓練です。県下27校中、10位だった記録が残っています。

●国防競技班(昭和16年~19年)

平均台渡り・綱ぐり・土囊運び・手榴弾投げ・障害壁越えなどを武装して行うのを国防競技と称したそうです。教練の一教目でもありました。



国防競技

同期会だより

■ 卒業5年目 メモリアル同期会 早川 莉央 (高69期)

3年ぶりの緑のフェスティバルが開催された11月18日当日69期の同期会が開かれました。関内カラオケパセラで170人の参加で再会を楽しみました。



写真提供：平野 舞奈 (高69期)

■ 成人を祝した祝い 記念同期会 大内 音郎 (高74期)

1月6日土曜日、成人を祝して横浜緑ヶ丘高校74期の同窓会が開かれました。高校3年次の担任の先生方及び牧稜会会長の池田さんも来てくださり、参加者の総数は250人近くになりました。卒業以来会うことがなかった人、今でも毎週のように顔を合わせている人、あまり話したことがなかったけれどふとしたきっかけから始めて同窓会でちゃんと喋った人、様々な関係性がある中で再会を楽しみ、大盛況のうちに幕を閉じました。

現在、74期として同窓会をどの時期に開くのかといった計画は立っていませんが、またみなさんとお会いできることを楽しみにしています。



■ 卒業60周年・傘寿超え記念同期会 開催 山下 東洋彦 (高13期)

2024年4月16日(火)に崎陽軒横浜本店で「十三の会」[卒業60周年・傘寿超え記念同期会]が開催されました。本同期会は、コロナ禍の影響で中止となった「卒業60周年・アラ喜寿記念同期会」のリベンジとして「十三の会」の最後の全体同期会として開催されました。

幸いに天候にも恵まれ、久し振りの旧友との再会を楽しむことが出来ました。

「さやかにわたる 海の風～」との緑高校歌斉唱に続き、卒業以来これまでの歴史を振り返りつつ竹間輝夫君が締め挨拶。最後は榎本守邦君のエールが会場に響きお開きとなりました。



卒業60周年・傘寿超え記念同期会

■ 高校16期 十六夜会 (いざよい会) のお知らせ 山口 弘子 (高16期)

高校16期の皆さん! いかがお過ごしですか。

高校卒業 50周年同窓会を旧パンパシフィックHで盛大に開催してから10年が過ぎました。

しかし16期有志は毎月16日に連絡を取り合って集まり美味しい料理を食べながら話し飲んで楽しい時間を過ごしています。

最初は谷崎義弘さんが18期の山崎富雄さん(サッカー部)のお店に声をかけて集まり16期にちなんで名前を十六夜会としました。今から24年前の事でそれからずっと休むことなくコロナ禍にもめげず続いており毎月20名前後が参加しています。

場所は進交会館、エステル横浜(鳥飼勝行さんが交渉)と変わりましたが、来年は私達も80才になり“会える日に会おう”と元気に明るく頑張っています。

毎月16日午後3時山下町バス停前のエスカル横浜(旧船員会館)うみかぜで皆様をお待ちしています。



■ 8年ぶりの同期会 小松崎 敏彰 (高21期)

2023年11月21日8年ぶりで同期会を無事開催しました。古希の時に計画しましたが、やっと開くことができました。恩師小澤先生も列席いただき、74名があつまり、円卓を囲み、懐かしい思い出話に盛り上がりしました。

今回は出席されなかった方へも、当日の皆さんの懐かしい顔をお伝えしたく、集合写真を印刷しお送りしました。

次回は2年後75歳後期高齢者突入記念として、また開催出来たらと思っています。



緑ヶ丘高校 21期 同期会 2023/11/21

同好会だより

■ 第19回 緑樹会・絵画展の開催 降幡 俊夫 (高7期)

母校創立100年を迎え、本年度19回となる緑樹会 絵画展を2024年4月24日から杉田劇場ギャラリーで開催いたしました。

80歳代の卒業生をはじめ昭和、平成の卒業生、それに教諭、在校生までと極めて広い年代の作品が出品され、また、昨年お亡くなりになった旧校長 田中先生の遺作、版画の版木なども展示されました。

来年は緑樹会絵画展は第20回となります。例年通り(4月末)の開催予定しております。新たに参加ご希望の方は、牧稜会事務局までご連絡ください。

第19回 緑樹会・絵画展

創立100周年を迎えた県立横浜緑ヶ丘高校卒業生、教諭、在校生など関係者による絵画展。ご高覧下さい。

■ 第13回牧陵ゴルフコンペのご報告 山下 東洋彦 (高13期)

4月11日(木)に「第13回牧陵ゴルフコンペ」が開催されました。今回は「大厚木CC桜コース」を会場としました。

“桜コース”の名に相応しい満開の桜に囲まれたコンペとなりました。今回参加は21名、今回も嬉しいことに初参加者が6名。15期の永石さん、22期の岩松・笠原・武田さん、39期の黒田さん、46期の山崎さんと色々な卒業期が加わりました。



2024年～日々是好日～

●掲載記事にご興味のある方、就職活動・お仕事・趣味など、投稿者とお話してみたい方は、お気軽にお問い合わせください。

greencommunity1923@gmail.com

(担当：砂川、山崎：46期)

※連絡先記載の投稿者には直接連絡可能です

■ 景色を造る仕事をしています 大胡 隆典 (高42期)

創立100周年おめでとうございます。

高校時代は、剣道部で毎日竹刀を振っていた記憶が蘇ります。部活動を通じ、今に続く得難い仲間との出会いがありました。緑高祭では「ゲート部会」として、放課後夜遅くまで、正門に建てるゲートを造りました。

こうした課外の活動を皆で盛り上げることも、我が母校の良さだと思います。私は、勉学と両立出来ていたかは、甚だ疑問ですが、当時から体を動かすことや物づくりは得意でした。

そんなわけで、大学の園芸学部を卒業後、家業を継ぎました。金沢区富岡で植周造園(株)と申します。私で5代目になります。明治9年創業、後2年で150年を迎えます。青空のもと個人邸や社寺仏閣などで、石を据え、竹垣造りに植栽や剪定と多岐にわたる作業に奮闘する毎日です。また、県立総合職業技術校で樹木医についての講義の担当や金沢区の公園愛護会の方々への講演などの活動もしています。木々の姿に季節を感じ、草花を愛でる心の余裕を皆様に提供できるよう、これからも邁進して参ります。



■ 俳優の道 竹井 亮介 (高43期)

私は現在、高校時代に望んでいた、俳優をしております。

緑高の長い歴史の中の3%の時間は、私にとっては充実した100%のアオハル時間でした。1年の前期で落ちこぼれた私。勉強はそっちのけで、部活や体育祭や緑高祭に取り組みました。今でも、タイムマシンがあったなら高校時代に戻りたいと思ってしまうほど、あの頃は輝いていました。

その眩しさの中で、なんとなく俳優という職業を意識するようになったのも、刺激的な友人らと過ごしたのと、試験を受けなきゃいけない仕事は無理と自覚したから。緑高にいたからこそ俳優の道を歩もうと思えたのです。落ちこぼれるのも悪くないですね！(笑)

100周年、誠におめでとうございます。



■ 充実した緑高同窓生との繋がり 上原 大介 (高46期)

高校時代は勉強そっちのけで、部活(硬式テニス部)ばかりやっていた記憶があります。卒業後は一部の友人と繋がっていただけでしたが、ここ数年で急に同級生との交友が増えました。仕事やプライベートがいち段落した年齢になったのでしょうか。お酒の席だけでなく、ゴルフや野球観戦、バスケット観戦の機会もいただき、そこでは同級だけでなく先輩や後輩の人たちとも交友を持たせてもらっています。皆パワフルで素晴らしい人たちばかりです。改めていい高校なんだな、と思います。

私も今は横浜で仕事をしています。「あぶない刑事」を見て育った世代ですので、横浜が大好きです。緑高が発信地となって横浜でビジネスができれば面白いな、と思う最近の日々です。



■ 当時も今も魅力溢れる同級生達が刺激に 高橋(旧姓 高萩) 久美子 (高46期)

100周年おめでとうございます。

13年前に元上司達と観光/外食向けIT企業を創業、現在100人強の社員の約半数を新卒入社組が占める中、彼らから聞く高校時代に比べると我ながら呑気にのびのびと過ごさせてもらったと緑高生活を懐かしく思い出します。自由で常に笑いのある時間を共にした友人達は、現在各方面で個性を發揮し活躍。そのオリジナリティは当時「臨海学区」と呼ばれていた、潮風の吹く横浜・みなとみらい・元町・本牧エリアで高校時代を過ごした経験も影響しているのかなと最近考えたりします。

粋と品と洒落っ気と自由が入り混じった臨海地区に属する横浜緑ヶ丘高校。これからの多くの魅力的な人材を輩出してくれることを楽しみにしています。



■ 心から緑高万歳! 星野 大記 (高46期)

創立100周年、卒業生として本当に嬉しく思います。卒業して30年が経ち、同級生と結婚し、同級生の友人と一緒に事業を経営し、沢山の同窓の仲間と毎年会って、素晴らしい思い出を振り返りながらまた新しい思い出を一緒に積み重ねる人生を歩ませてもらって来ました。たった3年間の高校生活での友人先輩後輩たちとの出会いがこれほどまでに私の人生にとってかけがえのないご縁として繋がりに続けてくれたことにただただ感謝しています。きっとこれからの100年も沢山の後輩たちにとって素晴らしいかけがえの無いご縁を紡いでくれると思います。緑高万歳!

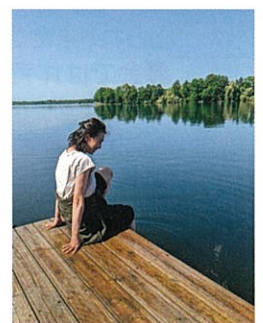


メンバーコースの戸塚カントリークラブにて同級生とラウンド

■ 緑ヶ丘高校から続く道 辻 奈緒子 (高54期)

私は現在ドイツの首都ベルリンに住んでいます。渡独から5年半が経ちました。ベルリンの人口は横浜市と同じくらいですが、面積は横浜市の約2倍あります。少し足を伸ばすと森や湖に行くことができることもあり、どこかゆったりとした雰囲気がこの街にはあります。

私はここで保育士として働いています。ドイツ語でのコミュニケーションはまだ苦労することも多いですが、毎日楽しく働いています。緑ヶ丘高校に在籍していた時には想像もしていなかった道を今歩んでいます。当時バスケットボール部で培った精神力は今も活かされていると思います。新体育館の完成、私も遠くから楽しみにしています。そして緑ヶ丘高校100周年本当におめでとうございます!





母校100周年 記念募金 経過報告



100周年記念募金の状況

皆様のご協力をいただきまして、2024年4月末迄に **21,160,152円** のご寄附をいただきました。

現在までに体育館用冷却送風機、生徒会館(部室)などの施設関係整備の計画や100周年記念誌の企画などが整いつつあります。

今回は再度「募金のお願い」を同封して、新年度のご寄附を再度おねがいしたく、お送りいたしました。

目標達成に向け一層のご協力をいただければ幸いです。

横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業委員会

横浜緑ヶ丘高校の前身横濱第三中学校は1923年(大正12年)創立し、100周年は2023年です。

100周年実行委員会では、長年の願いであった体育館の建て替えが県によって実施されることを祝い、記念式典を同所で開催する計画を立てました。当初は2024年(令和6年)11月に開催予定でしたが、建設工事が遅れ、記念式典を2025年(令和7年)に延期して開催することとなりました。

収入の部			支出の部		
学校基金	三徳会	15,000	記念式典	1,000	記念式典・アトラクション
募金	牧陵会	50,000	教育環境整備*	35,000	冷風機(体育館)
	一般募金	(15,000)	記念誌	10,000	生徒会館の改修
	まなびや募金	(35,000)	記念イベント	4,000	祝賀会、演奏会、美術展
			冠・後援事業	1,000	学校行事での特別企画、学校外企画
			記録・広報	5,000	広報、記念品
		記念募金	5,000	募金関係事務費	
		本部事務局	3,000	交通費、雑費	
		予備費	1,000		
	収入計	65,000	支出計	65,000	

◆100周年記念募金の対応

- 記念式典の延期に伴い、募金募集を2025年(令和7年)5月までに延期することといたします。
- 募金の概算については、上表を基本として推進してまいります。記念募金は2023年6月に開始しました。
- 目標額は5,000万円とし、一般募金とまなびや基金への募金と2通りの寄付方法があります。

◆一般募金は記念式典、記念誌の発行など記念事業全体へ充当します。

◆まなびや募金は体育館等の備品整備、その他の施設改修など、教育環境整備に限定して充当します。

※ここ10年間で、県により校舎棟及び体育館の整備が図られ、また、食堂の改修も進められてきました。募金では体育館への冷風機(800万円)を目標とします。また、新体育館の部室に入れられない部のために既存の生徒会館の改修(2,700万円)を目標とします。

◆100周年記念募金への支援

記念募金が目標に届かない場合には、牧陵会基金からの拠出も検討します。

100周年記念募金の入金状況 (期間: 2023/6/1~2024/5/31)

2024/5/31迄 入金金額: 1,592件 **21,346,152円**

卒業期	一般募金		まなびや募金		合計		
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
中学15	1	5,000	1	5,000	2	10,000	
中学16	0	0	0	0	0	0	
中学17	0	0	0	0	0	0	
中学18	2	40,000	0	0	2	40,000	
中学19	3	13,000	1	5,000	4	18,000	
中学20	2	40,000	0	0	2	40,000	
中学21	0	0	1	10,000	1	10,000	
高校*1	6	38,000	0	0	6	38,000	
高校*2	5	38,000	1	30,000	6	68,000	
高校*3	8	62,000	2	35,000	10	97,000	
高校*4	9	86,000	1	10,000	10	96,000	
高校5	11	65,000	6	25,000	17	90,000	
高校6	12	105,000	3	42,000	15	147,000	
高校7	19	253,000	4	61,000	23	314,000	
高校8	15	103,000	5	124,000	20	227,000	
高校9	11	72,000	6	47,000	17	119,000	
高校10	22	137,000	7	106,000	29	243,000	
高校11	23	188,000	13	166,000	36	354,000	
高校12	38	385,000	5	111,000	43	496,000	
高校13	47	325,000	18	358,000	65	683,000	
高校14	26	222,000	3	90,000	29	312,000	
高校15	39	427,000	12	230,000	51	657,000	
高校16	21	152,000	11	139,000	32	291,000	
高校17	32	403,000	14	282,000	46	685,000	
高校18	62	695,000	22	362,000	84	1,057,000	
高校19	38	391,000	13	250,000	51	641,000	
高校20	38	252,000	23	233,000	61	485,000	
高校21	43	788,000	14	280,000	57	1,068,000	
高校22	38	246,000	21	276,000	59	522,000	
高校23	16	100,000	9	185,000	25	285,000	
高校24	35	314,000	14	192,000	49	506,000	
高校25	29	160,000	17	116,000	46	276,000	
高校26	26	182,000	9	88,000	35	270,000	
高校27	26	1,382,000	19	357,000	45	1,739,000	
高校28	19	193,000	12	278,000	31	471,000	
高校29	34	230,000	22	792,000	56	1,022,000	
高校30	22	191,000	9	152,000	31	343,000	
高校31	19	206,000	11	465,000	30	671,000	
高校32	14	110,000	9	150,000	23	260,000	
高校33	12	82,000	17	188,000	29	270,000	
高校34	16	122,000	13	191,000	29	313,000	
高校35	14	135,000	12	230,000	26	365,000	
高校36	13	81,000	10	142,000	23	223,000	
高校37	19	214,000	7	88,000	26	302,000	
高校38	12	98,000	12	198,000	24	296,000	
高校39	12	105,000	6	83,000	18	188,000	
高校40	4	44,000	2	60,000	6	104,000	
高校41	4	130,000	3	65,000	7	195,000	
高校42	10	155,000	8	113,000	18	268,000	
高校43	5	138,000	9	135,000	14	273,000	
高校44	5	45,000	6	100,000	11	145,000	
高校45	3	20,000	2	60,000	5	80,000	
高校46	5	65,000	6	1,205,000	11	1,270,000	
高校47	1	10,000	1	15,000	2	25,000	
高校48	2	20,000	1	20,000	3	40,000	
高校49	1	10,000	0	0	1	10,000	
高校50	2	10,000	2	38,000	4	48,000	
高校51	4	35,000	1	10,000	5	45,000	
高校52	4	31,000	3	105,000	7	136,000	
高校53	1	10,000	2	30,000	3	40,000	
高校54	3	25,000	0	0	3	25,000	
高校55	3	16,000	3	40,000	6	56,000	
高校56	4	18,000	1	1,000	5	19,000	
高校57	1	5,000	0	0	1	5,000	
高校58	1	5,000	1	11,000	2	16,000	
高校59	6	53,000	2	20,000	8	73,000	
高校60	1	5,000	0	0	1	5,000	
高校61	3	6,000	0	0	3	6,000	
高校62	3	25,000	2	25,000	5	50,000	
高校63	7	46,000	3	80,000	10	126,000	
高校64	3	40,000	3	30,000	6	70,000	
高校65	3	22,000	0	0	3	22,000	
高校66	2	15,000	0	0	2	15,000	
高校67	1	3,000	2	25,000	3	28,000	
高校68	5	38,000	4	46,000	9	84,000	
高校69	5	42,000	1	10,000	6	52,000	
高校70	1	2,000	6	110,000	7	112,000	
高校71	3	10,000	1	5,000	4	15,000	
高校72	6	43,000	2	41,000	8	84,000	
高校73	3	16,000	2	20,000	5	36,000	
高校74	3	6,000	2	6,000	5	12,000	
高校75	3	22,000	2	50,000	5	72,000	
高校76	3	35,000	3	35,000	6	70,000	
卒業生計	1,033	10,657,000	501	9,683,000	1,534	20,340,000	
在校生	25	260,000	23	260,000	48	520,000	
その他	10	486,152	0	0	10	486,152	
合計							
		一般募金		まなびや募金		合計	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
	1,068	11,403,152	524	9,943,000	1,592	21,346,152	

会費・寄付金納入のお礼

牧陵会会長 直井 ユカリ

2023年度に下記の方々から会費納入、寄付金をいただきました。厚くお礼申し上げますと共に、牧陵会活動の原資として有効に活用させていただきます。

2023年度 2,278名 総額 4,556,000円 (敬称略、期別、会員番号順)

2023年度 会費納入者一覧

Table listing members by period (e.g., 中16期, 高9期) and name. The table is organized into columns representing different periods and rows representing individual members.

2023年度 寄付金納入者一覧 2023年度 1,176名 総額 3,293,000円 (敬称略、期別、会員番号順)

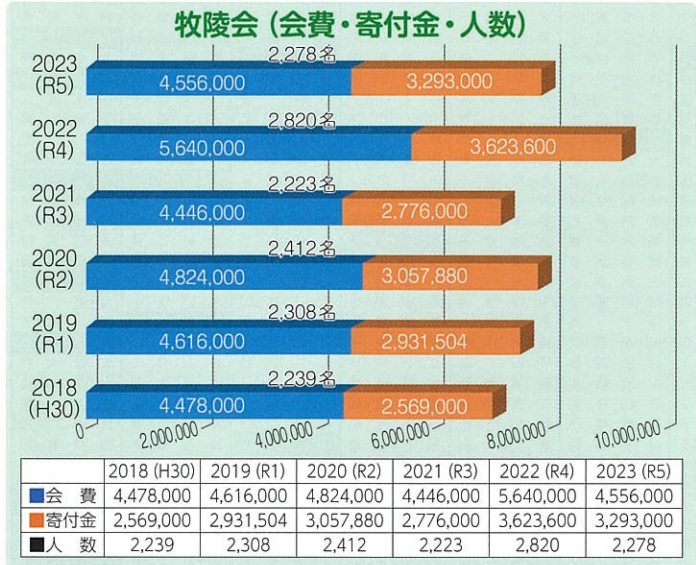
Table listing 1,176 donors with columns for name, address, and contribution amount. The table is organized into columns representing different periods (e.g., 中16期, 中17期, etc.) and is sorted by total contribution amount.

事務局より

Project 2500

プロジェクト 2500 横浜緑ヶ丘高校の未来のために

牧陵会会費納入の現状について (2024年3月現在)
 2023 (令和5) 年度は2,278名と目標を222名下回る結果となりましたが、会費4,556,000円、寄付金3,293,000円のご協力をいただきました。皆様のご協力に厚く感謝申し上げます。
 次年度に向け更なる活動への足掛かりとなるようプロジェクト2500の運動を続けてまいります。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。



【住所変更お届けのお願い】
 牧陵新聞配布に宛先不明による返送の事態が発生しております。皆様からの住所変更のお届けが増え返送数は減少しておりますが、転勤などで住所が変わる30代世代が宛先不明になることが多いようです。新聞は皆様と結ぶ大きなツールです。住所の変更は住居表示変更も含めお知らせいただければ幸いです。

◆住所変更届け出⇒ ホームページからのお届け又はファックスにて牧陵会事務所へ連絡をお願いします (事務所の開所が火・木曜日のみとなっております、電話での対応は難しい状態です)。

2024 (令和6) 年度 牧陵会活動予定

2024年 (R6)	9月21日(出)	第19回青春かながわ校歌祭 会場：ひらしん平塚文化芸術ホール
	9月23日 (月・振替休日)	横浜緑ヶ丘高校創立100周年記念 牧陵緑のフェスティバル ぜんりょく音楽祭 会場：神奈川県立音楽堂
2025年 (R7)	1月	令和7年 牧陵会新年のつどい 会場：未定

卒業生による吹奏楽団設立に伴う団員募集

佐藤 颯 (高73期)

この度、横浜緑ヶ丘高校吹奏楽部のOBOGによる吹奏楽団 緑高OBOG吹奏楽団 (仮) が発足する運びとなりました。現在団員41名、大学生から社会人まで高68-76期の卒業生が在籍しています。卒業しても音楽を合わせるあの喜び、あの青春は忘れられない!それならぜひ、私たちと一緒にもう一度吹奏楽を楽しみませんか?卒業生の交流の場としたいと考えておりますので、ぜひ幅広い年代で活動したいと考えています!ご質問や見学希望等ございましたら、お気軽にご連絡ください!皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【連絡先】 : ryokkoobogwind@gmail.com
 詳細はホームページ掲載

2024年度 メモリアル同期会 対象期のご案内

会員部会

◆同期会開催を計画しましょう (活動支援金の支給)
 牧陵会の基本は親睦にあり、会員同士のつながりは同期会でのつながりが基本となります。会員の交流を促進し、牧陵会への参画を促すことを目的として、牧陵会では同期会開催について1万円、特にメモリアル期の開催については5万円を支給して開催を支援しています。(敬老感謝同期会には2万円)
 コロナ禍の3年間で開催中止を余儀なくされた期も、2024年には開催を計画されることを期待しております。

◆牧陵会の同期会開催に対する活動支援金の繰越認容について
 3年間のコロナ禍において開催できなかったメモリアル同期会においても繰越して支援をできることとなっています。詳細については事務局にお問合せ下さい。

メモリアル同期会対象期 (通常1万円支援を5万円支援に)

	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
卒業後2年 成人式メモリアル	74期 R4年卒	75期 R5年卒	76期 R6年卒	77期 R7年卒	78期 R8年卒	79期 R9年卒
卒業後5年 メモリアル	71期 H31年卒	72期 R2年卒	73期 R3年卒	74期 R4年卒	75期 R5年卒	76期 R6年卒
卒業後10年 メモリアル	66期 H26年卒	67期 H27年卒	68期 H28年卒	69期 H29年卒	70期 H30年卒	71期 H31年卒
卒業後20年 メモリアル	56期 H16年卒	57期 H17年卒	58期 H18年卒	59期 H19年卒	60期 H20年卒	61期 H21年卒
卒業後30年 メモリアル	46期 H6年卒	47期 H7年卒	48期 H8年卒	49期 H9年卒	50期 H10年卒	51期 H11年卒
卒業後42年 還暦記念メモリアル	35期 S58年卒	36期 S59年卒	37期 S60年卒	38期 S61年卒	39期 S62年卒	40期 S63年卒

敬老感謝同期会対象期 (通常1万円支援に敬老感謝金として1万円を加算して支援に)

	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
古希 (70歳) 卒業後52年	25期 S48年卒	26期 S49年卒	27期 S50年卒	28期 S51年卒	29期 S52年卒	30期 S53年卒
喜寿 (77歳) 卒業後59年	18期 S41年卒	19期 S42年卒	20期 S43年卒	21期 S44年卒	22期 S45年卒	23期 S46年卒
米寿 (88歳) 卒業後70年	7期 S30年卒	8期 S31年卒	9期 S32年卒	10期 S33年卒	11期 S34年卒	12期 S35年卒

広報部会 部会長退任あいさつ

小松崎 敏彰 (高21期)

平成26年より広報部会会長を務めさせていただき、紙面の刷新、カラー化など変化に対応いたしました。編集担当者との共同作業がなければ、見やすく読みやすい新聞は発行できません。編集・印刷をお願いしている横濱大氣堂様に御礼申し上げます。

また、皆さんからの記事が新聞情報の基となり、紙面が成り立っています。

オンラインの時代ですが、紙媒体の新聞は会員の皆様にお届けできる重要な情報手段と考えています。

後任の西尾さん (高33期) には、新しい視点で新聞、ホームページのさらなる改善を進めていただきたいと思います。皆様のご多大なご協力に感謝いたします。

牧陵会事務所の場所・連絡先

関内駅北口から海側 (東) に徒歩200m「銀だこ」のビルです。
 TEL/FAX: 0 4 5 - 6 6 4 - 9 0 2 0
 メール: bokuryukai@gmail.com URL: 牧陵会.com
 住所: 〒231-0014 横浜市中区常盤町3丁目24 サンビル6階C号
 申し訳ありませんが、諸事情により事務局の業務は、火・木曜日とさせていただきます。